

## 新たに選定された「歴史の道」(長野市関係分)

名称：戸隠道

読み：とがくしみち

選定箇所：善光寺～湯福神社、善光寺～静松寺、荒安～一ノ鳥居～大久保の茶屋～戸隠神社火之御子社～戸隠神社中社～戸隠神社奥社、地蔵堂～戸隠神社宝光社～戸隠神社中社、種池周辺、女人結界石周辺(長野市)

概要：戸隠神社(近世までは戸隠山顕光寺)につながる道の総称である。修験者が霊場・戸隠山へ向かう道として開かれ、やがて一般大衆の参詣が増えるにつれ、複数の道筋が整備されたと考えられる。代表的な道は善光寺から戸隠神社中社までの表参道で、大きく三筋がある。主な分岐点には道標が置かれ、一ノ鳥居からは丁石も設置されている。参詣道のみならず山間の流通路としても大きな役割を果たした。



一ノ鳥居から大久保へ向かう戸隠道

名称：北国脇往還(善光寺道)

読み：ほっこくわきおうかん(ぜんこうじみち)

選定箇所：善光寺宿、丹波島宿(長野市)、稲荷山(千曲市)、猿ヶ馬場峠(千曲市・麻績村)、麻績(麻績村)、青柳宿(麻績村・筑北村)、立峠(筑北村・松本市)、会田宿、刈谷原峠(松本市)、郷原宿(塩尻市)

概要：中山道と北国街道を結ぶ輸送路で、善光寺への参詣道としても利用された。戦国時代には刈谷原、会田、青柳、麻績等で宿場が作られた。慶長19年(1614年)、松本城主の小笠原秀政によって中山道と麻績との間で宿駅制度が整備され、猿ヶ馬場峠を越えて桑原(千曲市)や稲荷山と結ばれたことで、北国脇往還が成立した。洗馬から善光寺へは約80kmの道のりで12(間の宿を含めると17)の宿場が設けられている。本陣や石仏等、往時の状況が良好に残されている。



善光寺道の終点となる善光寺宿